

令和3年度 神山中学校 学校評価 総括評価表

評価指標 アンケート肯定的評価・・・80%以上：A，80～60%：B，60～40%：C，40%未満：D

重点目標	重点目標を達成するための内容	生徒質問項目	評価	保護者質問項目	評価	教職員質問項目	評価	その他
1 安全安心な学校づくりを推進する。	①安全教育・防災教育を推進するとともに学校の安全対策及び感染症対策に努める。	1 避難訓練などの防災教育によって、地震や火災などの災害時に自分がとるべき行動を理解している。	A	1 学校は台風や積雪などの自然災害時において、メール等で適切な連絡ができています。	A	1 (学級担任) 学校行事のみではなく、学活等の授業においても防災教育や安全教育を進めている。	A	
		2 登下校時や学校にいるときに不審者に対して自分がとるべき行動を理解している。	A	2 学校は不審者等についての情報を適切に連絡している。	A			
		3 マスクを着用したり、帰宅時に手洗いをしたり感染症対策をきちんと行っている。	A	3 子どもは外出時にマスクを着用したり、帰宅時に手洗いをしたり、感心症対策をきちんと行っている。	A	2 (全教職員) 自分の担当場所について、校内の施設設備の安全点検が実施できている。	A	
	②生徒相互及び生徒間の信頼関係を確立するとともに、いじめや不登校の早期発見・早期対応に努める。	4 困ったことがあれば相談のつてくれる友達や先生がいる。	A	4 子どもは家庭で、友達や先生の話をよくしている。	B	4 (全教員) 生徒理解の視点を重視し、個に応じた指導を行っている。	A	
		5 先生はいじめや困っていることがあればすぐに取り上げてくれる。	A	5 学校は子どものことについて適切に相談に応じてくれる。	A	5 (全教員) いじめや不登校の防止の早期発見、早期対応について共通理解や組織的対応ができています。	A	
		6 SNS等を利用するときはモラルやマナーをきちんと守っている。	A	6 子どもが家庭でインターネットを利用するときのルールを話し合っていて決めている。	B			
	③令和4年度開始期より充実した教育活動が実施できるよう、新校舎への移転に向けて準備を進める。					6 (全教職員) 移転に向けて備品を整理するなど、新校舎での教育活動がスムーズに行えるよう準備をしている。	A	

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・防災、安全、感染症対策への意識が高く、避難訓練や普段の声かけなどにより、正しい行動を実行することもできています。 ・SNS等に関するモラルやマナーについては、学校での指導が浸透していると思われる。 ・生徒・教師間の信頼関係はおおむね良好であるといえる。 ・困ったことがあれば相談に乗ってくれる人がいると回答した生徒が98%を占め、信頼関係を育む指導ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の利用について生徒の意識は高いが、小さなトラブルの事例もあるので課題はある。 ・家庭でのインターネット利用のルールづくりについては十分ではないので、携帯・スマホ安全教室などを保護者向けにも実施するなどの啓発活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校からの固定的な人間関係から抜け出せずに不登校となる生徒が多い傾向にあるが、充電期間だと認識することも大切だし、学校での組織的な関わりや外部機関等の活用も重要だと考える。 ○オンラインでの授業はやはりできることが限られているし、対面の授業の代わりにはなりにくい面がある。 ○ここ数年はやはり感染症の問題が大きく影響しているが、感染症禍での工夫を行うスキルも定着してきているので、教育活動への影響を最小限にする姿勢を持つことが大切だ。

2 確かな学力を育成する。	①新学習指導要領の完全実施を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業実践を展開する。	7 授業では、その1時間の授業のめあてを確認して学習を進めている。	A			7 (授業担当者) 授業では、めあてを明示し、学習の流れを説明したり、振り返りを行っている。	A	
		8 ペアやグループ等の話し合い活動では積極的に考えを言っている。	A			8 (授業担当者) 授業では、思考力、判断力、表現力を高めるための工夫を行っている。	A	
		9 授業でタブレットを使うときにはしっかり活用できている。また、授業以外でもタブレットを適切に使っている。	A			9 (授業担当者) 授業中の活動の中に、タブレットを活用する場面を積極的に取り入れている。	B	
	②生徒自身が学ぶ喜びを味わい、達成感を実感できる学習活動を行う。	10 授業での学習活動において、楽しいと感じたり、やり遂げたことを実感できたりしたことがある。	A	7 子どもは以前より前向きに学習に取り組むようになった。	B	10 (授業担当者) 生徒が関心を持って取り組めるような授業の工夫をしている。	A	
	③自分にとって必要な学びを意識させることにより、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	11 積極的に自分の意見を述べ、主体的に授業に取り組んでいる。	B			11 (学年団) 自分の将来に向かって学習に臨めるようキャリア教育を進めている。	A	
		12 自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。	A	8 子どもは自分から進んで家庭学習を行っている。	B			

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で毎時間めあてを確認している生徒が90%であり、目的をもって授業に取り組んでいることがうかがえる。 ・タブレットの使用については、興味をもってしっかりと活用できている。 ・進んで家庭学習をしていると答えた生徒が88%であり、家庭でも学習に取り組む習慣ができていていると思われるが、保護者の回答では72%であり差が見られた。 ・問11の評価がB、問8でも同様の傾向があり、対話的な活動や自分の意見を述べる学習活動に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動、道徳の授業で発表できるようにするため、授業等で積極的にコミュニケーションの場面を取り入れていく。 ・発言しやすい仲間作り、間違いから学べる雰囲気づくりを普段から行う。 ・GIGAスクール構想に合わせ、全教員がタブレットを使った授業を実施できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔と違って家でもインターネットの普及で一人でできることが増えてきており、子どもが一人部屋に居ても勉強しているとは限らない状況になっている。 ○学校にもタブレットが配置されたことは大きいですが、ソフト面の充実が活用のためには重要となる。 ○学級ごとの雰囲気があり、意見をあまり言わない学級もある。コミュニケーション(5W1H)の能力や発表の訓練も良い点もあるが、リーダーの育成等も良い影響を与えていると思われる。

3豊かな心と健やかに生きる力を育成する。	①基本的な生活習慣の定着を図り、運動機会を大切にするとともに、特別活動を通して自主性を伸長する。	13 大きい声で友達や先生にあいさつしている。	A	9 子どもは早寝早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身につけている。	A				
		14 部活動は楽しく、積極的に参加している。	A				12 (部活顧問) 生徒は部活動で自発的に行動できている。	B	
		15 神中祭等の行事で、自ら進んで活動できた。	A	10 神中祭等の行事で、生き生きとした生徒の姿が見られた。	A		13 (全教職員) 神中祭等の行事においては、生徒の自主性を高める工夫ができた。	A	
	②特別の教科道徳の実践を通して道徳性を高めるとともに、人権を尊重する精神を育み、人権問題についての正しい理解と実践力の育成に努める。	16 道徳の時間において、友達としっかり話し合ったり、手を挙げて発表したりできている。	B	11 子どもはやさしい人間として育ってきていると感じている。	A		14 (学級担任) 道徳の時間に、友達と話し合う場面を積極的に取り入れるよう工夫している。	A	
		17 学級での人権学習や合同学習は自分を育み、人権問題についての正しい理解と実践力の育成に努める。	A	12 子どもは友達と良い人間関係を築き上げている。	A		15 (学級担任) 道徳や学活の時間に計画的に人権学習を進められている。	A	
		18 合同学習や清掃等の縦割り班活動を積極的に行っている。	A						
③特別支援教育のための校内体制を充実させ、適切な合理的配慮を提供する。	19 先生は一人一人に応じた対応をしてくれている。	A				16 (全教員) 個々の教職員が特別支援教育における研修に取組み、協力的な校内体制ができている。	A		

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 大きい声で友達や先生にあいさつしていると答えた生徒が90%あり、礼儀やマナーが身につけていると考えられる。 道徳の授業では、難しいものや深刻なものになるとパタッと発言が止まってしまうことが課題である。 合同学習や清掃活動での縦割り班活動が積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業で発表できるようにするため、グループでの活動やペアになっての活動など積極的にコミュニケーションを取り入れていく。 自分の考えを表現することの大切さを伝えていく。 教師があえて異なる意見を提示したり、間違いが恥ずかしいことではないと常々伝えていく。 自己肯定感の低さが感じられるので、授業や学校行事の中で自信をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業での発問は、一問一答にならないよう工夫することで多様な意見が引き出せると思う。 人間関係の中での経験が少ないことが、他人の気持ちを推し量る事ができない場合やたかくなに自分の考えを変えない場合につながっていると思われる。 自分の考えを言おうとするときに失敗を恐れたり、知識をたくさん持っているが、そこからどう使っていくかが苦手だと思われる。

4 保護者や地域住民に信頼される学校づくりを推進する。	①各種たよりの発行やホームページの活用により積極的な情報発信を行う。	20 学校からの配布物はきちんと家の人に渡している。	A	13 学校だよりや学校のホームページをよく見ている。	B	17 (全教職員) 各種たよりやホームページでの情報発信を適切に行っている。	A	
	②教職員のコンプライアンス意識の醸成に努め、信頼される学校組織をつくる。					18 (全教職員) 教職員は倫理観や責任感を持っており、節度ある態度で職務に臨んでいる。	A	
	③ふるさとに学ぶ学習活動を重視し、地域で行う学習を推進する。	21 神山町についての学習や校区で行った学習活動が印象に残っている。	A			19 (学年団教員) ふるさとに関する学習活動や校区での体験的活動を実施することで、ふるさとを大切に思う気持ちが育てられた。	A	

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 学校からの配布物はおおむね渡せているようであるが、届いていないこともあった。 学校だよりやホームページをよく見ていると答えた保護者の割合が76%だった。 今年度もコロナ禍により、職場体験学習や保育実習が実施できなかったり計画を変更せざるを得なかったりした。しかし、つなぐ公社の協力など新しい方策につなげることもできた。 ふるさと納税教育支援事業等では、現校舎の思い出を残すアルバムを作成し、高い評価をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを毎月発行できた。内容も充実しており今後も継続して高い評価を得られるように努める。また、ホームページも積極的に更新できるよう努めるとともに、保護者に見ていただくよう伝える。 へき地教育を含め、ふるさとについて学ぶ機会を工夫し実施できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと神山町のことをしっかり勉強することで、ふるさとを大切に思い気持ちが高まると考えられる。

5 協働した組織的な業務執行体制により、機能的で合理的な学校運営を行う。	①学年団組織の協働した取組による教育活動や学年の運営体制をつくる。					20 (学年団教員) 学年団の教職員で協力して学年の教育活動を行い、公平な業務の分担ができている。	B	
	②全教職員による共通理解を大切に、個々の学びの成果を共有する。					21 (全教職員) 自分が行っている業務について、他の教職員がその内容を概ね理解してくれている。	A	
						22 (全教員) 自分が研修してきた内容を他の教職員に広めることができた。	A	
	③風通しの良い職場づくりを進めるとともに働き方改革を推進する。					23 (全教職員) 職員間の人間関係は良いと感じる。	A	
						24 (全教職員) 業務改善により働き方改革が進められている。	A	
					25 (県費職員) 校務支援システムやグループウェアを適切に活用できた。	A		

総合評価	次年度への改善策	学校関係者の意見
<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス意識が高く、職員間の人間関係が良い。 授業中にタブレットを活用する場面を積極的に取り入れているとの回答は63%で、十分とは言えない。 学年団での協力体制や公平な業務の分担に課題があった。 本年度から実施した新しい日課については、おおむね良好にとらえられ運用できている。 縦割り班活動の拡大については、リーダーシップの育成や異学年間の交流に効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で思考力や表現力を高める工夫を行っているが、生徒の実感がやや低い。引き続き道徳・学活等での表現力の向上を進めていく。 授業における効果的なタブレットの使用について、研修などを通して教員のスキルアップを図る。 業務の分担などを見直し、全員が公平感ややりがいを感じられる職場づくりを目指す。 業務改善につながるよう、校務支援システムを職員全員が使えるよう努める。 文科省や県のガイドラインを参考にし、感染症対策についてさらに気を付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業、部活、校務等の個々でバランスをとることは難しいが、全体として公平感のある体制をつくることが重要だ。 不登校や問題行動のあるときに担任だけに任せられるのではなく学年や学校全体でできることを進めていく姿勢も大切だ。 GIGAへの取組は、まだまだ始まったばかりの過渡期と言える段階で、今後の活用に向けた取組が大切だと思われる。